

I 実践

1 研究主題

思いやりと感謝の気持ちを育てる人権教育のあり方

(1) 主題設定の理由

本校は「心豊かで進んで学ぶ、たくましい児童の育成」を教育目標として掲げている。その中で「思いやりのある子」「人の気持ちを考え、助けたり力を合わせたりする児童」の育成をめざし、を育てるためにカインドアッププロジェクトを立ち上げ様々な教育活動を行っている。それを受けて、人権教育では、「思いやりと感謝の気持ちを基盤とした人権尊重の精神を育てる」を目標の一つにしている。

そこで、様々な体験や学習を通して温かく関わる場の設定をすることで、思いやりと感謝の気持ちのある児童の育成を図っていきたいと考え、本主題を設定した。

(2) 研究内容

温かく関わる場の設定

- ・異学年交流
- ・地域の人たちとの交流
- ・居住地校交流

2 実践内容

【温かく関わる場の設定】

ア 異学年交流

- ・ハッピータイム（1～6年・学級活動）

異学年が交流する縦割り班の活動として「ハッピータイム」を行っている。1組集団が「ハッピー赤」、2組が「ハッピー黄色」、3組が「ハッピー青」で、クラスを6班編制にして縦割りで活動する。6年生がリーダーシップを取り、低学年の世話をしながら遊びを工夫し、交流を行う。異学年の交流による心のつながりを作るだけでなく、体力作り、運動の日常化、遊びの拡大なども狙っている。

- ・みんなで遊ぼう集会（1～6年・特別活動）

5、6年生がいろいろな遊びを考え、1～4年生を招待して共に遊ぶことで、異学年間の連帯感を高めると共に、豊かな人間関係が構築できるようにする。

- ・豊っ子フェスティバル（1・2年・生活科）

1、2年生が生活科の学習活動の中で行っている。2年生がいろいろな遊びコーナーを計画、準備し、1年生を招待してともに活動する。楽しく遊ぶことのできる遊び場を工夫したり、遊び方を分かりやすく説明する方法を考えたりして、1年生のために、グループごとに協力して活動を進める。

イ 地域の人たちとの交流

- ・豊浦の昔はっけん！！（3年生・総合的な学習の時間）

地域の人たちとの出会いや交流を通して、自分の興味・関心から調べたり体験したりすることで、昔の暮らしの様子を知り、特徴や良さを感じ取る。また、地域の昔の暮らしに対する思いや願いを深めるために、お年寄りの方々との交流を通して、昔の遊びや食生活、町の様子などについて聞き取ったり、一緒に体験したりする。学校に来てくださったお年寄りの方々と交流給食も行う。

- ・地区の敬老会への参加（4・5・6年・地域行事への支援）

4年生と6年生は作文を5年生は手紙を書いたり、歌やダンスを練習したりして準備し、敬老会に参加する。当日は、作文発表や手紙、歌やダンスを通して、自分たちの思いや願いを伝え和やかに交流する。

・花いっぱい運動（6年・総合的な学習の時間）

町づくり推進委員さんとともに、6号国道沿いの花壇で花を育てている。町づくり運動に参加できる喜びと地域の方々とのふれあいは、子供たちの情操を育む上でとても大切な体験になっている。

ウ 居住地校交流（日立特別支援学校の2年生2名）

・1学期は、2年2組と2年3組がそれぞれ図画工作と給食、音楽活動を通して交流した。活動内容については、事前に打ち合わせをしておくことで、協力学級の中で一緒に学習活動を楽しんだりふれ合ったりすることができた。

・2学期は、特別支援学級とクリスマス会の活動を通して交流した。ゲームや歌、お茶会などを一緒に楽しんだり和やかな雰囲気の中でごく自然に関わったりすることができた。

3 成果

（1）ハッピータイム取材した保護者からこんな声が寄せられた。「ハッピータイムが始まる前に率先して下級生を迎えに行ったり、活動中下級生がけがをした際すぐにかけよってあげたり6年生の優しさ、思いやりの心に感心しました。・・・そんな上級生に感謝し、見習うことで、下級生も自立していくんでしょね。人をいたわる気持ち、優しい心をいつまでも大切にしてほしいと思いました。」少子化の影響で他人との関わり合いが希薄になっている昨今、他学年との交流を取り入れた活動は、思いやりや協力し合う気持ち、豊かな人間性を育てる上で大きな役割を果たした。

（2）地域の方々との様々なふれあいを通して、いろいろなことを感じたり学んだりすることができた。そして、地域に住む方々の思いや願いにもふれることができた。何よりも、自分たちはいつも地域と共に生き、見守られていることに気づき感謝することができた。

（3）肢体に障害がある児童との音楽活動では、車いすが動きやすいよう机のない多目的室で行ったことで、2年3組の児童一人ひとりとの距離が縮まり、お互いにふれ合う楽しさを感じることができた。また、一緒に関わる時間を設定したことで障害に対する理解も深まった。

II 今後の課題

（1）教職員の人権教育に対する研修の充実を図り、教師が理解や認識を深めることで、児童一人ひとりを大事に考え、全教育活動の中で人権教育を推し進めていく必要があると考える。

（2）人権コーナーでは、人権メッセージを掲示している。今後は、さらに充実を図り、地域の人々との連携の様子を知らせたり児童の経験や思いを広げていったりする場として設定していきたい。

（人権コーナー）

